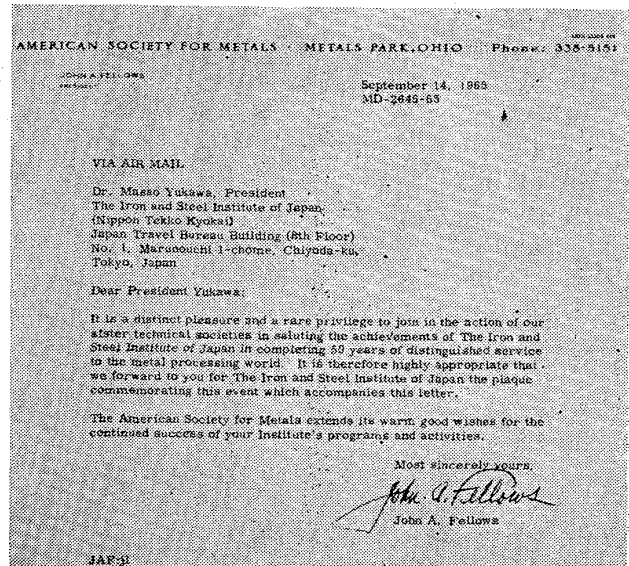


日本鉄鋼協会記事

日本鉄鋼協会創立 50 周年を祝して、ASM (The American Society for Metals) より、書状とともにステンレスに文字を掘込んだ立派な額が贈られてまいりました。

また、本会はヴェネズエラ金属工業会の准会員 (Associate Member) に任命されました。下記に記念額および任命状を掲げます。

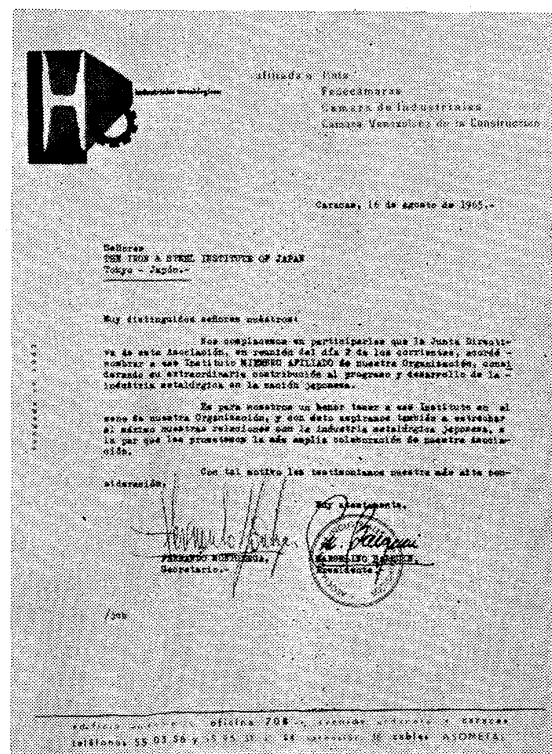
ASM よりの記念品



「書状」： 日本鉄鋼協会会長殿 貴日本鉄鋼協会の 50 年にわたる鉄鋼界への業績に敬意を表し、姉妹協会として協力していくことは非常に喜びであり、光栄に思います。

ここに日本鉄鋼協会創立 50 周年を記念して額を贈呈いたします。ASM は貴協会が益々発展されんことを心からお祈りいたします。

ヴェネズエラ金属工業会よりの任命状



〔書状〕：会長殿 弊ヴェネズエラ金属工業会理事会は8月2日の会議において、貴日本鉄鋼協会の日本製鉄業の進歩と発展に対する卓越せる貢献に鑑み、貴協会を弊金属工業会の准会員に任命することを決議いたしました。

弊金属工業会は、貴協会を会員に迎え得ましたことを名誉とするものであり、これにより、弊金属工業会と日本製鉄業との関係が最大限に緊密化することを切望すると共に、弊金属工業会の最も広汎なる協力を約束するものであります。

理 事 会 (第 5 回)

開催日：昭和40年7月21日。場所：協会々議室。出席者：湯川会長他25名。

会議事項

- 副会長選挙に関する件
富士製鉄芝崎常務が評議員会で理事に就任されたので副会長に互選し承認された。
- 経理処理について
会計担当理事より40年度4半期別、月別収支予算および実績について改正様式により報告した。
また経理手続要領(案)を決定。
- 他団体よりの依頼による褒賞、奨励などの候補者推薦方法に関する件
候補者選考手続きとして、表彰、奨励金、論文など内容により小委員会を設置し予備選考を行なうことに決定。
- 秋期講演大会(10月13日～16日)の行事につき協議。

企 画 委 員 会

第5回委員会 開催日：昭和40年7月16日。場所：協会々議室。出席者：辻畑委員長他22名。

会議事項

- 秋期講演大会運営について
北九州市で行なわれる大会に当り既定行事のほか第3日(10月15日)に、実行委員会側と本部側と運営に関する反省を行ない今後の大会運営に資するため懇談の機会を設けることに決定。
- 経理処理について
会計担当理事より経理手続き案ならびに新しい様式による収支予算、決算について諮り承認された。
- 国際技術交流について
CNRM高炉燃料に関する国際会議に対する日本の提出論文調整には池上氏が主査に委任さる。

編 集 委 員 会

第5回委員会 開催日：昭和40年7月19日。場所：協会々議室。出席者：荒木委員長他11名。

会議事項

- 第51年第12号(11月号)掲載論文選定
論文3件・展望1件・共研報告1件、選定済み
- 論文審査報告
報告数5件…掲載可3件、修正を要する原稿2件
- 技術資料掲載予定
- 表彰選考小委員会委員選任依頼について
論文に関する表彰選考小委員を、編集委員会より荒木委員長ほか8委員に依頼した。
- 特別報告書刊行について

第6回委員会 開催日：昭和40年8月18日。場所：協会々議室。出席者：荒木委員長他18名。

会議事項

- 論文審査報告
報告数5件、掲載可2件、修正のため返却3件。
- 鉄と鋼第51年第13号(12月号)掲載論文選定について
論文4件、技術資料2件、昭和40年索引 以上選定済み。
- 第71回講演大会申込締切日について
昭和40年11月15日(月)と決定。

第1回シンポジウム小委員会 開催日：昭和40年8月27日。場所：協会々議室。出席者：堀川小委員長他6名。

会議事項

第71回講演大会討論会テーマ

- 焼結鉄の還元時(特に低温)の挙動
 - 純酸素上吹転炉製鋼法における脱磷、脱硫の機構
 - 構造用鋼の特性におよぼす微量Nb添加の影響(特に強化機構)
 - 鋼中非金属介在物と機械的性質
- 以上4テーマについて原稿募集することになった。

欧 文 誌 編 集 委 員 会

第2回委員会 開催日：昭和40年7月5日。場所：協会々議室。出席者：荒木委員長他15名。

会議事項

- Vol. IV No. 4 の講評
- Vol. V No. 4 の原稿
- 選定編集作業を円滑にするため、編集会議を隔月に開く。
- 投稿規定を検討し、原案を一部修正のうえ、採決
- カナダからの投稿論文は Overseas には掲載せず“鉄と鋼”に掲載する。

資 料 委 員 会

第21回委員会 開催日：昭和40年7月13日。場所：協会々議室。出席者：草川委員長他17名。

会議事項

“鉄と鋼”の利用者の利点から考査し、資料委員がテストケースとして、

“鉄と鋼” Vol. 51 No. 4, 第69回(春季)講演大会の論文に、U.D.C. をつけることに決定した。

共 同 研 究 会

製 鉄 部 会

第5回在京幹事会 開催日：昭和40年8月3日。場所：協会々議室。出席者：萩原幹事他10名。

第6回在京幹事会 開催日：昭和40年8月25日。場所：協会々議室。出席者：萩野幹事他7名。

.....

製鋼部会

第31回部会 開催日：昭和40年7月16, 17日。場所：東京厚生年金会館。出席者：井上部会長他約90名。

会議事項

- 7月16日：1. 鋼塊の欠陥防止に関する研究
2. 酸素の有効利用に関する研究
上記テーマについての各社研究報告
17日：午前訪英真空脱ガス視察報告

松田亀松氏(八幡製造所)

大久保益太氏(日本鋼管)

午後 学振との合同討議

議題「鋼中ガスを特に窒素ガスに関する研究」

鑄型分科会

第17回分科会 開催日：昭和40年7月15日。場所：鉄鋼連盟会議室。出席者：岡部主査他。

鋼板部会

ホットストリップ小委員会

在京委員会 開催日：昭和40年7月1日。場所：富士製鉄本社 622号会議室。出席者：吉田幹事他10名。

在京委員会 開催日：昭和40年9月3日。場所：富士製鉄本社会議室。出席者：吉田幹事他14名。

条鋼部会

線材分科会

幹事会 開催日：昭和40年8月20日。場所：神戸製鋼所東京支社第一会議室。出席者：有沢主査他12名。

特殊鋼部会

部会 開催日：昭和40年7月1, 2日。場所：名古屋中小企業センター。出席者：磐城部会長他約60名。

会議事項

- 7月1日午前：ホットスポットに関する名大市川教授の講演および各社からの関連研究報告
午後：特別講演：英国鉄鋼協会 1964年度秋季大会(特別議題連続鑄造)出席報告
講演者太田隆美氏(光製鉄所)
牛島清人氏(住金製鋼所)

7月1日午後～7月2日午前

自由議題「鋼材の内質改善上の製造技術に関する研究」についての各社報告

7月2日午後：大同製鋼知多工場の見学
愛知 “ ” “ ”

計測部会

幹事会 開催日：昭和40年8月13日。場所：竜名館。出席者：中村幹事他8名。

秤量分科会

第18回分科会 開催日：昭和40年7月1日。場所：協会々議室。出席者：中沢主査他40名。

会議事項

1. 原料荷揚の秤量

(1) コンベアスケールの検討経過について(秤量分科会)

(2) その他(鋼管川崎, 水江, 神鋼神戸)

2. 高炉装入原料の秤量(川鉄千葉)

3. 秤量に関する改善研究

(富士室蘭・広畑, 鋼管鶴見)

4. 秤量機の検査保金(東海)

5. 見学会 千葉製鉄所

調査部会

開催日：昭和40年7月5日。場所：協会々議室。出席者：合同調査担当者計23名。

会議事項

1. 原料専用(兼用)岸壁能力会同調査の段取方法を決定した。
2. 同調査の対象期間は39年4月1日より1カ年間とした。
3. 計算は沖ビジネスマシンに委託することにした。

新技術開発部会

真空冶金分科会

開催日：昭和40年7月16日。場所：協会々議室。出席者：長谷川主査他25名。

会議事項

1. 報告事項Ⅰ：当分科会は今回を以つて一応、その活動に終止符を打つこととなつた。

今後、このテーマは主として特殊鋼部会が扱い、製鋼部会も必要に応じてこれを扱うこととなる。

2. 報告事項Ⅱ：「訪英真空脱ガス視察団報告」

今春ロンドンで行なわれた真空脱ガス会議に派遣された視察団の松田団長(八幡DH開発室長), 浅野団員(広畑・技研), 大久保団員(鋼管・技研)から、報告書の概要, 視察工場の設備・技術概要が報告された。

鉄鋼分析部会

発光分光分析分科会

在京委員会 開催日：昭和40年8月31日。場所：協会々議室。出席者：杉山主査他8名。

会議事項

1. 他元素の影響について神戸製鋼の試導結果の検討
2. 共同実験結果の集計計算方法について。

非金属介在物分析小委員会

第3回委員会 開催日：昭和40年7月17日。場所：竜名館。出席者：池川委員長, 前川小委員長他11名。

会議事項

本小委員会は鋼中非会属介在物の分析法の確立を目的として設置され、まず酸化物系介在物につきヨウ素メタノール法の適用範囲の決定, 精度の確認を行なうため共通試料による実験を行なつている。

今回は第3回共同実験結果試料中のイオウ, マンガン量がヨウ素メタノール法の分析結果におよぼす影響調査の総括報告および検討が行なわれた。

また鉄鋼分析部会から検討を委託された鋼中ガス分析法 JIS 原案(規格協会作成)の処置について協議した。

標準化委員会

第9回幹事会 開催日: 昭和40年7月7日. 場所: 協会々議室. 出席者: 作井委員長他19名.

第10回幹事会 開催日: 昭和40年7月20日. 場所: 協会々議室. 出席者: 作井委員長他14名.

鋼管分科会

第3回分科会 開催日: 昭和40年7月23日. 場所: 協会々議室. 出席者: 下川主査他17名.

会議事項

1. 鋼管関係 JIS 改正に関する問題点について
各社よりのアンケート回答に従い問題点の集約を行なった。
2. 需要者へのアンケート項目検討
JIS 改正に関するアンケートにつき検討を行なったができるだけ具体的項目を採ったアンケート表を作成し8月中旬には発送することとした。
3. 構造用鋼管懸案事項について
専門委員会に対する問題点のメーカー側意志統一を行なった。
5. ISO TC11/SC1, TC17/WG10 の合同国際会議について
同会議の鋼管関係に関する問題点に関する問題点および国内でのとりまとめ方の検討を行なった。

臨時分科会 開催日: 昭和40年9月4日. 場所: 鉄鋼連盟第1会議室. 出席者: 下川主査他14名.

会議事項

1. 鋼管規格改正に関する user へのアンケート内容の検討
幹事会社原案について検討を行ない各 user へ配布することとした。
送り先については工技院, 協会, 幹事会社で検討する。
2. ボイラー用鋼 ISO-R に関する検討普通鋼分科会より諮問のあつたボイラー管関係の検討を行ない幹事会社でまとめ答申をすることとした。

機械試験方法分科会

第1回分科会 開催日: 昭和40年8月20日. 場所: 協会々議室. 出席者: 吉沢主査他17名.

会議事項

1. 第1回の分科会のため, 主査工技院より当分科会設置の経緯などについて説明があり, 続いて各委員が自己紹介を行なった。
2. 運営方針について
すでに作成されている機械試験方法に関する ISO Recommendation などをすべて網羅し, 各委員が分担を決めてこれらを検討する。またこれらの結果を反映させて JIS の見直しまで手を上げた。
3. あらかじめ配布して検討しておいた硬さ試験に関する Draft proposal 9件が承認された。
4. 引張試験および高温機械試験に関する Draft proposal 2件を8月中に検討することにした。

鉄鋼基礎共同研究会

非金属介在物分科会

第2回分科会 開催日: 昭和40年7月19日. 場所: 協

会々議室. 出席者: 荒木主査他25名.

会議事項

1. 報告事項

第1回, 第2回小委員会の経過報告があり, ほぼ承認を得た。

2. 協議事項

鋼塊, 鋼片から採取の試験片の数が膨大なものとなるため参加各社の試験引受能力について話合った。この結果大体, 処理可能という見通しを得たので, あらためて期限を定めて, その中で可能な処理数をアンケートすることとした。また分析方法について特に非金属介在物試験法のうち精度, 難易度に問題ある方法について検討した。そのあと東大の後藤講師から Ti, Nb などによる脱酸後の溶解酸素量の平衡計算の例が説明された。

第3回分科会 開催日: 昭和40年8月18日. 場所: 協会々議室. 出席者: 荒木主査他24名.

会議事項

1. 第2回分科会, 第3, 4回小委員会の経過が報告され, 承認された。
2. 溶解方案のうち, 特殊元素 (Ti, Nb, V, Cr) を担当する日本鋼管より方案の説明があつた。
3. 試験材出鋼日について, 打合せが行なわれ, 8月9月の両月中に出鋼を完了することが確認された。
4. 試験分担方法について検討し, 詳細を小委員会に付託。
5. 分科会, 小委員会の名称を「非金属介在物部会」「幹事会」に変更することに意見が一致した。

第2回小委員会 開催日: 昭和40年7月6日. 場所: 協会々議室. 出席者: 荒木主査他14名.

会議事項

1. 第1回分科会経過報告……分科会では研究の焦点を明らかにすることが特に要望されたので小委員会は今後, 実験計画で練り直す場合, つねにその問題を念頭に置いて作業を行うこととなる。
2. 実験計画の検討
リムド鋼塊溶製後の各試験について検討を進めた。

第3回小委員会 開催日: 昭和40年7月26日. 場所: 竜名館. 出席者: 荒木主査他13名.

会議事項

1. 第2回分科会での検討内容の確認
2. 41年度研究計画について: 先般工業技術院より41年度研究補助金の概算要求があつたため小委員会メンバーは来年度計画を次回あたり検討することとした。
3. 試験鋼塊溶製仕様案について
住金・和歌山・川鉄・千葉・神戸・尼ヶ崎より具体案が提出され, 特に脱酸などの基準状態について意見の交換をした。八幡, 富士, 鋼管は次回, 仕様案を出すとのことであつた。
サンプリングについても特に造塊工程でこれを入念に行ない基礎データを固める準備とすることになつた。

第4回小委員会 開催日: 昭和40年8月13日. 場所: 協会々議室. 出席者: 荒木主査他12名.

会議事項

1. 前回に引きつづき、八幡、富士より溶解方案の説明があった。
2. 試料の Numbering について検討を加え、簡易で、間違いの少ない指示法をまとめた。
3. 溶解・造塊に関する試料、データのとり方について意見を交換し、6社とも、大体同一の仕様でこれを行なうこととした。
4. 試料分担についてのアンケート結果が報告され、各社の分担量の合計は、全試験を十分まかなえることが判明した。

試験高炉委員会

第5回幹事会 開催日：昭和40年7月12日。場所：協会々議室。出席者：辻畑委員長他14名。

第5回委員会 開催日：昭和40年7月22日。場所：産名館。出席者：辻畑委員長他14名。

会議事項

1. 第16次試験操業結果報告
館幹事より説明があり、種々検討の結果、さらに広く意見を求め各事業所より集まってもらって検討することになった。
2. 第17次操業について
一応16次の結果を細かく解折した上でテーマ、方法等考える事にして来年3月を目標に考えている。
3. 試験設備補助について
幹事会の意向通り第17次の予算に含めて切りつめて行くことになった。

国内炭活用製鉄用コークス

製造試験委員会

開催日：昭和40年8月10日。場所：協会々議室。出席者：久田委員長他26名。

会議事項

1. 基礎試験…装入炭配合割合の影響調査…結果報告について
2. 実炉試験実験計画案検討
3. 実炉試験発生コークスの処分について
4. その他
1/4 t 炉による基礎試験が好結果のうちに8月中旬終了し、以後実炉試験に入ることが報告され実炉試験計画案が承認された。

クリープ委員会

第2回委員会 開催日：昭和40年7月22日。場所：協会々議室。出席者：三島徳七委員長他17名。

会議事項

協議した主なるものは次のとおりである。
技術部会および業務部会のメンバーを決定し、それぞれ委嘱をお願いすることとなった。
次に技術部会で検討すべき事項に関し活発な討議を行ない、それぞれ決定された。

第1回技術部会 開催日：昭和40年7月28日。場所：協会々議室。出席者：俵副委員長他41名。

会議事項

俵副委員長が技術部会長の代りにクリープ委員会の経過を報告された。

次いで平委員より技術部会の活動方針につき説明が行なわれ、活発な討議があった。

第1回業務部会 開催日：昭和40年8月3日。場所：協会々議室。出席者：俵部会長他8名。

会議事項

1. クリープデータシート作成用試験対象鋼種の要望について。
2. 依頼試験費用の事前調査について。
3. クリープ委員会のPR（国際会議の参加）に関すること。
4. クリープ委員会予算および会費に関すること。

上記のうち議題1については下記の件名により三島委員長名をもつて金材技研橋本所長宛8月20日付要望書を提出した。

件名

「材料試験部において着手すべきデータシート用試験対象鋼種の要望について」

クリープ試験技術研究組合技術委員会

第32回委員会 開催日：昭和40年7月29日。場所：協会々議室。出席者：平委員長他20名。

会議事項

1. 40年度共同試験計画案について
2. 39年度共同研究実施について

上記のうち第2項については試験応力を決定するとともに試験開始時期を本年8月1日とすることが諒承された。

鉄鋼照射試験研究合同委員会

第6回立会者連絡会 開催日：昭和40年7月13日。場所：三菱電機、熱海東海荘。出席者：長谷川委員長他17名。

会議事項

1. 38年度分、39年度分の照射がそれぞれ9月、11月に行なわれることが確認され、立会者およびその日程などを検討した。
2. 39年度の照射材のミルシートの検討を行なった。（八幡、日鋼、富士鉄）
3. 38年度分の高温サブアセンブリにつき三菱原子力より報告された。
4. 40年度計画について検討を行なった。

第13回研究合同委員会 開催日：昭和40年7月26日。

場所：協会々議室。出席者：長谷川委員長他26名。

会議事項

1. 38年、39年度分の経過報告。
38年度分は9月中旬に、39年度分は11月中旬に照射される予定である。
2. 39年度分照射材のミルシートにつき、KMNグループ、日鋼、NKより発表が行なわれた。
3. 38年、39年度分の会計報告。
4. 40年度試験方案の検討を行なった。
5. 41年度計画は各社の負担をできるだけ少なくして従来のデータの補足、基礎研究を中心に行なうことにした。

支 部 記 事

東 北 支 部

本会東北支部では、9月7日講演会が、また9月10日、11日に日本金属学会、日本鋳物協会、日本鋳業会、溶接学会各東北支部と共催で第3回研究発表会ならびに見学会が行なわれた。

講 演 会

日 時 昭和40年9月7日 (火) 午後1時より。

演題・講師 ストリップミルと自動車用鋼板

八幡製鉄(株)常務取締役技術研究所長 藤 木 俊 三 氏

場 所 東北大学

東北支部連合第3回研究発表会

期 日 昭和40年9月10日 (金), 11日 (土)

場 所 東北大学

見 学 東洋刃物多賀城工場

講 演

KHP分光結晶による鉄鋼中軽元素のEPMA分析について
 水素による砂鉄の流動還元
 含チタン溶鉄中の窒素溶解度に関する一考察
 粒子分散型鉄合金の室温および高温の機械的性質
 平滑試片の衝撃曲げにおける機械的性質の研究
 鋼の衝撃引張と静的引張との関係
 鉄-クロム合金のシグマ相生成への窒素添加の影響
 Fe-Cr 合金の定常クリープ速度の温度および応力依存性
 黒鉛鋼の諸性質におよぼす黒鉛量の影響について
 (黒鉛鋼の研究-2)
 鉄-窒素二元合金の焼入、焼戻組織について

天 満 元 昭, 他
 小野田 守, 他
 杉 浦 三 朗, 他
 宮 崎 享, 他
 廉 永 夏
 廉 永 夏
 熊 田 健三郎
 村 田 威 雄, 他

 長 岡 勝 昭, 他
 土 屋 正 行, 他

新 入 会 員 氏 名

(昭和40年7月1日~8月31日)

正 会 員

八卷 賢一	(株)神戸製鋼所	高橋 清幸	大阪製鋼(株)
玉野 敏隆	富士製鉄(株)本社	石原 森	内外炉工業(株)
目黒 勝	中研	都丸 泰延	〃
石川 功	釜石	梅地 幸雄	(株)淀川製鋼所 呉
川上 陽	広畑	小椋 哲弘	〃
橋本 真輔	〃	高馬 孝昭	山陽特殊製鋼(株)
原 義明	〃	増田 孔	〃
米岡 孝	〃	大岩 晋吾	日新製鋼(株) 呉
石川 純生	住友金属工業中技研	松本 博人	〃 周南
田村英二郎	製鋼所	迎田 昌夫	東洋鋼板(株) 下松
松井 孝次	〃	水木 功	〃
根本 新	和歌山	斉藤 義彦	日本金属工業(株)川崎
本城 厚	〃	鈴木 充	日立金属工業(株)安来
宇野 克洋	小倉	斉藤 哲也	大同製鋼(株)星崎
木瀬 一孝	〃	清水 孝宣	三菱重工広島造船所
原 鉄夫	〃	伊藤紫一郎	トピー工業(株)東京
林 登	(株)神戸製鋼所	金木 忠	日曹製鋼(株)
児玉 幸典	〃	白谷 勝典	日本特殊鋼(株)
片井 協一	〃	岡部 功	三菱製鋼(株)東京
栗原 正男	中研	木造 博厚	愛知製鋼(株)
藤田 達	〃	竹元 幹生	東邦金属(株)
生田 正浩	高砂	梅田 芳久	函館ドック(株)
		佐山 惣吾	北海道工業開発試験所
日坂 昌勝	(株)神戸製鋼所		
森口 昇	〃		
田中 信義	〃 堺		
津村 嵩一	川崎製鉄(株)研修所		
片江 隆行	〃 千葉		
浜田 尚夫	〃		
山崎 昌一	〃		
渡辺 昭嗣	〃		
田中 宏猷	八幡製鉄(株)技研		
望月 晴雄	〃		
河村 敏彦	〃 光		
長尾 正喜	八幡製鉄(株) 堺		
山口 勝司	〃		
金井 功	愛鋼工業(株)		
杉本 親総	〃 奈良		
坂下 政義	〃 今市		
松山 繁	〃 大沢		
岩崎 宣博	日本鋼管(株)技研		
松島 巖	〃		
逢坂 忍	〃 水江		
広神 勝彦	〃		
岩下 弘一	大阪製鋼(株)		
鈴木 忠雄	〃		

森 茂久 有明製鉄(株)
 関根 喜一 (株)日本製鋼所
 北山 真一 日伸製鋼(株)網干
 嬉 克男 新大日製鋼(株)
 佐藤 新一 同和鋳業(株)
 中沢 則雄 東北特殊鋼(株)
 嶋田 朝雄 日本冶金工業(株)
 宮城 文夫 日井国際産業(株)
 千葉 修 東京螺子製作所
 斎藤 昭夫 鋼管鋳業(株)
 柏谷 英夫 東京芝浦電気(株)
 小坂雄太郎 信越化学工業(株)
 石塚 英三 日本鋳業(株)

岡野 稷 古河鋳業(株)
 間庭 秀世 富士電機製造(株)
 辻崎 忠雄 太平金属工業(株)
 井上 敏郎 洞海機器工業(株)
 米岡 良修 東邦亜鉛契島製錬所
 平塚 和夫 日本砂鉄鋼業(株)
 八木 晋 西村工業(株)
 外山 冾之 日本工BM(株)
 佐藤 秀二 日鋼特線(株)
 和田 春枝 金属材料技術研究所
 上田 満 大阪大学工学部
 師岡 利政 武蔵工業大学
 渡辺 悦尚 早稲田大学鑄研

植田 安昭 九州工業大学金属工学
 下重 長正 住友金属工業(株)
 (日本鉄鋼協会派遣)

学生会員

浜田城太郎 早稲田大学理学部
 陳 俊英 " 大学院
 フェリップ・カルデセン
 東京大学大学院
 陳 游 有 東北大学工学部
 夏目 亮三 名古屋大学工学部
 山本 武美 大阪大学大学院
 永倉 義之 鉄鋼短期大学

外国会員

Oldrich Bohus (Czechoslovakia)
 Hans Warrol (Sweden)
 Ake Josefsson (Sweden)
 Library, Iron and Steel Board (England)

Research Lab. Jones & Laughlin Steel Corp. (U.S.A.)
 Hermann Th. Brandi (W. Germany)
 朴 璟 萬 (韓国)
 閔 柄 善 (韓国)
 吳 応 煥 (韓国)

(特許記事 2289ページからつづく)

純酸素上吹転炉製鋼法

特公・昭40-16762 (公告・昭40-7-31) 出願: 昭38-12-27, 発明: 渡辺省三, 大久保静夫, 土屋一志, 出願: 富士製鉄株式会社

予備ロール交換装置

特公・昭40-16775 (公告・昭40-7-31) 出願: 昭38-5-30, 発明: 石井英雄, 出願: 株式会社日立製作所

溶鋳炉または同類物に対するガス供給方法

特公・昭40-16882 (公告・昭40-8-2) 出願: 昭38-10-21, 優先権: 1962-10-31(アメリカ), 発明: ロバート・リード・アサートン, 出願: ユナイテッド・エアークラフト・コーポレーション

鉄鉄精錬用の傾注式転炉

特公・昭40-16883 (公告・昭40-8-2) 出願: 昭39-1-31, 優先権: 1963-1-31 (オーストリア), 発明: ペ

ーテル・ブックスカンドル, 出願: フェルアイニヒテ・エーステルライヒッシュ・アイゼン・ウント・シュタールウェルケ・アクチェンゲゼルシャフト

熱処理方法

特公・昭40-16887 (公告・昭40-8-2) 出願: 昭38-9-14, 優先権: 1962-9-28 (アメリカ), 発明: ウィンストン・ハロルド・チャング, 出願: ゼネラル・エレクトリック・コムパニー

鉄・コバルト・バナジウム磁性合金の熱処理方法

特公・昭40-16892 (公告・昭40-8-2) 出願: 昭38-10-3, 発明: 奥田健二, 茂原三夫, 出願: 東京芝浦電気株式会社

鉄を含む酸化ニッケル含有鋳石の処理方法

特公・昭40-16893 (公告・昭40-8-2) 出願: 昭38-11-15, 発明: 中俊一, 嶋谷敬夫, 中沢元一, 岩本正男, 大森滋, 出願: 住友金属鋳山株式会社

正 誤 表

「鉄と鋼」第51年第9号(8月号)

随想「技術者の在り方について」 執筆者 森永孝三

	[誤]	[正]
1587ページ上から8行目	農業において 農作貧乏 という...	農業において 豊作貧乏 という
" 上から13行目	現在のように 通過 しつつある...	現在のように 逼迫 しつつある